令和６年度　第２回寝屋川市青少年自立支援連絡会会議録

**１　日時**

令和７年３月25日（火）午前10時～11時

**２　場所**

　池の里市民交流センター２階　青少年の居場所スマイルMAINの部屋

**３　出席委員**

岡元会長、阪本副会長、槙原委員、山口委員、上居委員、平川委員、

岩本委員、砂口委員、佐々木委員

**４　欠席委員**

山田委員、髙岡委員

**５　事務局（社会教育推進課）**

川上

**６　会議次第**

* 1. 開会（会長が議事進行）
     1. 会長あいさつ
  2. 案件
     1. 研修「自殺者数の状況と自殺対策の取組について」

講師　保健総務課　中村課長代理

* + 1. 意見交換　研修を受講して

【山口委員（産業振興室）】

何らかの理由があって、就職ができない方がおられるが、自殺を考えるまで悩まれているという相談は今までのところ受けたことがない。本日の研修で心の健康センターを初めて知ったので、高年齢層が多いが、相談に来られた時に繋いでいきたい。

【岩本委員（こどもを守る課）】

こどもの心に関わる事案について、心理士が対応できるラインまで対応するが、場合により病院を紹介している。市として「心の問題」に対応しているのは、保健予防課である。役割と専門性が違うが、「こどもを守る課」なので相談が多い。

こどもを守る課は虐待担当。市民の人が勘違いするのは仕方がないが、庁内の関係部署は、こどもを守る課の役割を認識した上でつないで欲しい。

【砂本委員（教育指導課）】

学校もそれぞれ悩んでいるところで、オーバードーズなどの問題が低年齢化していると感じる。

現場の先生方も、アンテナを張っているが実態をつかみにくい。

子どもの心の奥底までは見えないから、そこが課題。

こどもを守る課と、保健予防課の役割の違いについて、学校現場で認識できていない部分もあるかもしれないので、自殺の関係で相談になった時は、保健予防課の方だと、周知をしていただけるといいかもしれない。

【槙原委員（保健予防課）】

保健予防課に精神科の嘱託医がいるので、利用してもらう一番のメリットは、その子どもや親に精神的な医療が必要かどうかの判断ができること。相談を受けた場合は、その事案に係るリスクがどれくらいあるかを見ることがメインになる。

支援者や、学校の先生は「死ぬ」というキーワードを言えば、余計にそれを助長してしまうと思い、ためらう人が多いようだが、こどもから「死にたい」と伝えられた場合には、「死にたいって思うぐらいしんどいんだよね。気にかけているよ。」と伝えたら良いと教えている。

【佐々木委員（総合教育研修センター）】

総合教育研修センターの中にある教育支援センターで、不登校に関わる児童生徒のサポートをどのようにするか総括的に考えている。

色々な方に関わっていく中で一番感じるのは、「困っていることを、ちゃんと伝えて助けを求められている人がすごく少ない」ということ。

実際に、教育支援センターで、他の部署と繋がってサポートさせていただいた事例として、教育支援センターでは学生派遣という事業があるが、教育支援センターには登校支援教室、学校に行けていない方が通う場所があり、外にもほとんど出てこれない方に対して学生を派遣している。

学生派遣をしてる中で、保護者の状態がかなり悪いことがあり、基本的に学生を1人で行かせるが、「安心して派遣できる状況ではない」と、状態を把握した時に、保健予防課に連絡をすると、「母親が精神疾患をお持ちなので、支援を進められるかも」と情報共有していただき、支援につながることができた。

教育支援センターも、子どもや保護者に関わる部署として、大事なことは「情報をいかにキャッチして、どこかに相談しながらどのようにサポートを進めていくのか」であると教えており、関係する部署とやりとりをしながら進めたい。

【平川委員（保護課）】

保護課では、子どもの健全育成事業をしており、子どもの相談員を２名配置している。

内容は、経済的に困窮されてる方、世帯が多いので、出産、妊娠の相談、または進路相談。経済的な理由で高校、私学に行けない等、助成金があると案内をさせていただく。不登校の相談や、中にはオーバードーズ、リストカットの相談もあるが、件数的には多くない。

保護課でできることは限られているが、今日教えていただいた事を子ども相談員

にも情報共有させていただく。

【上居委員（福祉総務課）】

ケースを持つ訳ではないが、たまに電話相談があり、関係各課に繋ぐこともある。メールの相談が続いた時に、色んな部署に繋いできた。

令和７年度から重層的支援体制整備事業を本格実施する。

それぞれの部署に支援体制があり、それぞれに関係機関に繋いできたが、どこかに抜けが生じることがある。その支援の隙間を埋めていく。

対象者が窓口に来室したら、その人の困り感を聞いた上で、各担当課にひきつぐ。

緊急案件がある部分に関しては、各課に対応していただかないといけない。

引きこもりの相談で、引きこもりの要因は例えば精神疾患だったり発達障害だったり、或いはよくわからなかったり、その中で必要に応じて医療につなぐ。

中核市で保健所もあり、保健予防課には保健衛生の専門家がいらっしゃる状況で、本市では庁内で完結しやすいかもしれない。

【事務局（社会教育推進課）】

この自立支援連絡会に参加している課も限られてるが、この各課間での情報共有や連携で、本当に救える世帯があるのではと思っているので、引き続き連携しながら支援を進めさせていただきたい。

重層的支援も、各課の制度や、お互いが取り組んでいる制度の理解を深めることで、本当に色々な世帯が救えるのではないかと思っているので、お互い理解しながら進めさせていただきたい。

今回は自殺対策ということで、保健総務課の中村課長代理にお話しいただきました。改めてありがとうございます。

人事異動等で各課の担当者の変更もあると思いますが、令和７年度も引き続きご協力をよろしくお願いします。